



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/e-kurihara/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和3年度3月号

令和4年3月1日

「VITALITY2021」をふり返って

校長 大井 敏彰

新型コロナウイルスのオミクロン変異株が猛威を振るい、様々な教育活動が制限される中、まとめの月である3月を迎えました。今年度の登校日数も18日（6年生は16日）となり、子供たちはそれぞれの学年・学級のまとめを行いながら、卒業や進級といった新たなステージに向かって、準備をしています。

さて、コロナ禍で始まった令和3年度、想定される様々な変化や変革に対応していけるよう、スローガンを「VITALITY2021」としました。急激な変化が繰り返される1年でも活力あふれる学校づくりを推進できるよう、職員一丸となって取り組んでまいりました。

実際、現実には厳しいものでした。この1年間で、3度の「まん延防止等重点措置」、1度の「緊急事態宣言」により、さまざまな制限を余儀なくされました。ですが、子供たちも職員もさまざまな変化に対応し、また保護者の皆様にもご協力をいただきながら、栗原小学校ならではの豊かな学びが展開されました。学校だより5月号の巻頭言では、スローガンを具体像として以下の内容をお示ししましたので、ふり返ってみたいと思います。

- ① コロナ禍でも子供たちの活気や成長に繋がる教育活動を展開します。
- ② これからの子供たちに必要な資質・能力を伸ばす教育を推進します。
- ③ 一人一人の学びのスイッチを押し、子供たちの主体性を引き出します。

①については、感染状況が小康状態であった2学期に、「半日開催の運動会」や「くりっ子まつり」、「くりっ子オータムキャンプ」などを実施することができました。どの活動も、子供たちの考えを土台とした行事となり、子供たち自身が成長を実感できるものになりました。

また、9月のOMO型分散登校の経験から、子供たちが自宅から授業に参加することができるようになりました。3学期のコロナ禍においても、学びを止めずに自宅からリモートで授業に参加する様子がたくさん見られました。

②については、1人1台のChromebookを子供たちが使いこなし、これまで実現できなかった学びが数多く展開されました。リモートと対面で班を編成して実験を行う理科授業、1人1人がイヤホンを通して音楽動画を視聴し、自分の気付きや考えをまとめる音楽授業、ロイロノートを活用し、全員が自分の考えを表明しながら考え議論を深める道徳授業など、ICTを通して、これから必要とされる「個別最適な学び」が展開され、子供たちの資質・能力が伸長されました。

③については、先月3日に新座市教育委員会の委嘱を受け、「主体的に学ぶ児童の育成～考え、決定し行動できる個の確立を目指して～」を研究主題として、3年間の体育授業研究の成果を発表しました。当日は、オンラインでの開催になりましたが、教師の意図的な仕掛けにより、子供たちが自分の考えをもち、仲間と交流しながら、主体的に学習に取り組む様子が見られました。また、他教科においても、「スイッチ」をキーワードに、子供たちへの動機付けを重視した授業づくりが展開されました。

なお、保護者の皆様におかれましても、2度のオンライン授業参観・懇談会にご協力いただきありがとうございました。保護者の皆様にもICTを知っていただくよい機会となりました。

今年度も残り少なくなってきましたが、「VITALITY2021」を完遂できるよう、3月も栗っ子の活気や成長に繋がる教育活動を展開してまいります。ご協力をお願いいたします。